
アイデアの波に乗って

トマ兔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イデアの波に乗って

【Nコード】

N7295Y

【作者名】

トマ兔

【あらすじ】

ネギ・スプリングフィールドの双子の弟として生まれた主人公。自分についての記憶がない。原作知識もない。魔法の才能もない。特別な能力はあるけどチートじゃない。

ないない尽くしの主人公。あるのは情熱だけ。
そんなネギま！転生記

この小説は携帯で書いてるので、パソコンで読むと多分見づらいです。

一話

落ちる。

墜ちる。

墮ちる。

おちる？

上下左右前後がない空間で、ただ漠然とそんなことを思ってた。浮遊感はない。下から吹き付ける風もない。下もない。

つてか体がない。

なのに自分が今おちてることはわかる。

摩訶不思議な体験。でも何故か今までにないくらい落ち着いている。いや、違う。落ち着いてるんじゃない。余計な事を考えられな
いだけ。

オチル。

おちル。

オチル。

堂堂巡りの思考。変わらない空間。しかし終着点が見えた。どのくらい落ちていたかわからない。“やっと”なのか“もう”なのか。

おちる。

おちる。

着いた。

「オンギヤー」

生まれ落ちるのと同時に、俺の意識は落ちた。

これはいくら考えても答えはでないだろう。一番可能性があるのは輪廻転生だが、前世の記憶を持ってというのがはなかったはず。輪廻転生は仏教の考えで、仏教の起源はバラモン教。別にどっちも熱心に信仰してた訳じゃないのに。……ん？あれ？俺って宗教どこだっけ？

……アメリカの首都は？

ワシントンD.C.

572 + 318 = ?

890

俺の誕生日は？

……

賢い人はホモ・サピエンス。なら信じる人は？

ホモ・レリギオス

万物の根源は何かという問題にタレスは水、アナクシマンドロスは無限なもの、ピタゴラスは数と答えた。では原子と答えたのは？

デモクリトス

ガンディーの非暴力抵抗方式を黒人闘争に取り入れ、人種平等・経済的平等、平和、民主主義などの実現を目指し、奴隷解放100周年1963年8月、ワシントン大行進をおこない、「私には夢がある。いつか奴隷の子孫と奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルにつく夢が」と演説したのは誰？

キング牧師

………寝るか！考えるのが無駄なら寝る方がいい。下手な考え休むに似たり。先人はいい言葉を残したよ。起きたら夢でありますよ
うに。

三話

夢じゃなかった。

そして

「あうあうあう」（知らない天井だ）

ここは何処？私は誰？

最初の覚醒時は周りを見る余裕がなかったが、改めて見ると覚えのない場所に寝転がっているようだ。

もっとよく見ようと首を動かそうとするが、まだすわってないよう動かない。

でもこれで自分が今何歳なのかわかった。生後三ヶ月未満といったところか。まだ生まれたてホヤホヤだ。

現状の把握をもっとしっかりおこないたいが、最初の失敗を見習って、あまり深く考えないようにする。

それに新たな問題が二つ浮上したので、一つの事に集中してる場合じゃない。

問題一つ目、腹が減った。

最初の覚醒からのくらい時間が経ったのかわからないが、とにかく腹が減った。でもこの身は首もすわってない赤ん坊。何もできない。

泣いたら誰か来るのかな？でもこんな成熟した精神を持っているのに泣きわめくのはちょっと気が引ける。

そう思ってた時期がありました。

あっこれは御丁寧にどうも。俺はスズナって言います。カツコイイ眉毛してますね。

初対面でこんな事頼むのは失礼になるんですが、お腹が空いてるのでご飯を用意していただければ幸いです。

「どうした？オムツか？」

いえ、腹が減ってるんです。もうお腹と背中がくっつきそうです。

「違うか……。なら寂しいのか？」

違います。ご飯を用意してください。あと人のケツを勝手に触るのはやめろ。

「ホレホレ、お母さんはここだぞ。」

あやされても腹は膨れねえよ。さっさと飯持ってこい。

「イナイイナイバア〜」

いいかげんにしろおお！！！！！こっちは死活問題なんだよ！！！！てめ

えのつまらなえギャグ見てる暇ねんだよ！！腹が減ったって言うてんだろ！！わかつたらさっさと飯持ってくるか、その枝分かれした不思議眉毛剃り落としてこい！！！！

「これもダメか……。あつ腹が減ったのか？」

やっとわかったか。わかつたんならさっさとミルク持ってこい。口ツクで。

人肌に冷ますの忘れんなよ。

「ちょっと待っておれよ。」

待つよ。いくらでも待つ。だから早く持って来てくれ。

ん？何ゴソゴソしてんだよ。俺の事は一旦ベッドに置いて、用意しにいけよ。

「ホレ、いっぱい飲むんだぞ」

……俺が悪かった。全てを謝る。

母乳かよ！クソツタレエエエ！！！！
ちよつと待て！それはダメだ！ホントにダメだ！！何がダメかって
全てがダメだ。

確かに体は首もすわってない、生後三ヶ月未満の赤ちゃんだ。でも
精神は違う！エピソード記憶がぶっ飛んでるので自分が何歳かわか
らないが、多分成人してるぞ。現に事態に陥るまで母乳の事なんか
頭からすっかり抜け落ちていた。そして年頃の女の人から授乳する
事に激しく抵抗している。ってか離乳は一歳三ヶ月ころから開始す
る。ここまで複雑な思考ができて、前世は一歳ですなんてことはな
いはずだ。

「フフツあまり強く吸い付くでないぞ。」

おいしい！！もう目の前にあるうう！！！！ヤツベ、すっげーピン
ク色。そうじゃねーよお！！お願い！！一生のお願い！！！！生後三
ヶ月未満だけど、一生のお願い使っちゃう！それだけはっ！！それ
だけはやめてっ！！！！なんでもするからっ！！初めて喋る言葉は
マンマにするし。夜泣きもしない！！だからそれだけはっ！！

おいっ！バカっ！やめっ…

チューチューゴクゴク

チューチューゴクゴク

チューチューゴククン

ゲプッ

もう何も怖くない

さて腹も膨れたし二つ目の問題について考えようか。

それは違和感があるのだ。

いや赤ちゃんになつてる事がすでにおかしいんだが、エピソード記憶がぶつ飛んでるおかげで自分が赤ちゃんになつてる事についてはそこまで大きな違和感は感じない。あと俺の言葉遣いが定まらないのは、未発達の頭に成熟した精神が合つてないんだらう。子供はすぐ泣くし、すぐ笑うし、すぐ怒る。子供の激しい感情の起伏が中途半端に精神に反映されてるみたいだ。

じゃあ何が違和感になつてるかというと、“何か”あるのだ。何かとは随分漠然とした言い方なんだが、何かとしか言いようがない。

自分の体の中に二つ。そして自分の周りにも感じる事ができる。

体の中にある二つの内一つは、周りにあるものと一緒。いや周りにあるものを吸収してるのか？

もう一つは体の中から湧き出てるようだ。

全くわからん。

わかる事といたら、この二つはさつき俺を凌辱したお母さんから感じた事。

特別なものではないのか？

それとも俺とお母さんが特別なのか？

情報が少なすぎるから判断に困るな。

もって考えたいが時間だ。子供の仕事はよく食って、よく寝て、よ

く出す。さつき満腹になったので眠たくなってきた。

今度こそ起きたら夢才子でありますように。

三話（後書き）

アリカ登場

口調はこれでいいの？アリカって金髪だっけ？ってかいつ頃ネギを村に預けたの？

wiki頼りなので合ってるかわかんない。
来月に漫画買う予定です。

そして主人公の名前判明。

大体ほかの二次創作ではアリカから名前を取っているんですが、この小説ではスプリングフィールドから取りました。
スズナっていうのはカブの別称です。そしてカブは春の七草の一つです

理由はほかの作品との差別化っていうのが大きな理由なんですけど、災厄の魔女って呼ばれてる自分の名前から取って子供の名前つけるかなあって思ってます。

まあ名前なんてどうでもいいんですけどね。

最後に主人公が感じた違和感の正体は気と魔力です。
ほとんどの人がわかったと思いますけど。

四話

首がすわって数週間。もうほとんどの赤ちゃんプレイは網羅した。初めてののお漏らしとオムツ交換はかなり精神にクルものがあつた。しかし今では慣れた。人は適応する動物なのだ。

そして俺は今、大きな事を成そうと挑戦中だ。

これは俺自身にとつても、人類、いや世界にとって大きな一歩となるだろう。

俺がこれを成す事によって人類は新しい進化の可能性を見つける。俺は今試されているのだ。まさか生後三ヶ月とちよつとでこんな大役を任されるとは思わなかつた。しかし試されているならそれに答えるのが男。俺の底力を思い知れえ！

ゴロンッ

やった！ついにできた！！これで人類は別の進化の道を辿る事になる。その結果、人類はエネルギー問題を改善、地球温暖化も解消。世界は救われ、みんな笑顔になる。鳴り止まないファンファーレと響き渡る拍手に浸りながら、俺は溢れ出る達成感に身を任せた。

ん？何ができたって？
寝返りだバカヤロー。

さて、寝返りもできたし次のステップだ。
まず体の中から湧き出てる何かに意識を集中させる。体全体を把握する事は出来ないので、より集中しやすいように一カ所に限定する。集中する場所はお腹の下あたり。そしてヘソ、胸、肩、に流して、腕まで持っていく。掌でしっかり毛布を掴み、何かに満たされた腕を使って体を起こした。

この数週間、色々違和感について考察して、なんとなくこれの正体とできる事がわかってきた。
簡単な肉体強化、それと体調を整える事もできる。
生まれたての乳児はちよつとした事ですぐ体調を崩す。実際俺も少し体がダルいなど感じる時があった。その時にはすでに、この何かはある程度操作可能だとわかっていた。悪い感じはしなかったのもは試しだと思つて体中を循環させたら、段々体調がよくなってきた。それ以来、体調を崩した時は何かを循環させるようにしている。

肉体の強化はさつき実演した通りだ。

この二つの事から、違和感の正体は“気”ではないかと思う。

気は東洋医学では重要な診察方法の一つだ。武術でも独自の概念と理論で気を利用する流派がある。

体調を整える事も、肉体を強化する事も可能だ。

しかし、この違和感を気と仮定すると疑問も沸いて来る。
まず、こんなとんでもないものなのか？東洋医学で使われていると
いっても、はつきり実感するほど効果がでるとは思えない。
肉体の強化もそうだ。寝返りも、手の平で支えて頭を上げる事も、
どっちも普通なら生後五ヶ月ころにできる。俺はまだ四ヶ月も経っ
ていない。

そして、もし気なら何故俺は違和感として認識したのか。気は色々
な解釈があるが万物に流転するもの、万物を構成する要素と、どん
なものにも存在する。なのに俺はそれに違和感を感じた。

……いくら考えても答えは出そうにない。
それに違和感はもう一つある。こっちの方は全然わかっていない。

今は目の前の事に集中しよう。目の前には赤ちゃんがいる。年は俺
と同じくらい。多分双子だろう。名前はネギとお母さんが言ってい
た。

その頬つぺたは触れなくてもわかるぐらいやわらかそうで、ちっち
やい手には愛嬌がこれでもかかっていうほど詰まっている。

(ヤッベー、めっちゃかわいい)

赤ちゃんを愛でる赤ちゃん。なんとも奇妙な図がそこにはあった。

ずっと見ていたかったが、そろそろ限界だ。腕がプルプルしてきた。

上げていた体を下ろし、腕に溜めた気を解放した。そして次は体中に気を流す。正確に流す事はできないが、これで充分。気合い一発っ！強化した全身の筋肉を使って二度目の寝返りに成功。

考える事、片付けないといけない問題はいっぱいある。でも今はこの赤ちゃんプレイ、もとい赤ちゃんライフを楽しもうと思う。まだまだ人生は始まったばかりなのだから。

もう夢オチは期待しない方がいいだろう。

四話（後書き）

ネギ登場です。

まだこの時はかわいい赤ちゃん。もちろんセリフはない。

つてか四話書いてまだ赤ちゃんって……。

展開が遅すぎる……

更新が早い方がいいと思って、ちょっと書いて投稿してるんですが、もっと書き溜めてから投稿した方がいいのかな？初めて小説書くんでよくわかんないです。

主人公とネギの関係なんですが、どうしましょつか？

ほかの作品は険悪な関係が多いんですけど、俺はそんなにネギ君嫌いじゃないし、主人公も原作知識がないので無理に嫌う必要はない……。

男の娘にしてヒロイン入りとかありますか？

五話

生後五ヶ月が過ぎた。今日もしつかり赤ちゃんプレイを満喫している。

この一ヶ月とちょっとで色々な事が起こった。

ネギが寝返りに成功した。

ネギが喃語（バーバー、バーブーなど）を喋った。

ネギがほほえみ返してくれた。

ネギが笑いかけてくれた。

最近ネギが可愛くて仕方ない。子供の成長って早いね。昨日までは全然出来なかった事が今日には出来てる。そして日に日に可愛くなっていく。もうね毎日萌えっぱなしです。

明日には何が出来るんだろう、一人で大丈夫かな？手伝いはいらない？

ネギの一挙一動にいちいち不安がり、そして期待する。

ハイ、もう立派なお父さんです。同い年だけどね。

ネギの成長は早いけど、やっぱり俺の方が早い。

もう七ヶ月相当の事は出来るようになった。最近はひとりで座れるように努力中だ。初めてお母さんの事をマンマと言った時は両親共にお祭り騒ぎだった。

そして努力の結果ひとりで座れるようになった頃、大事件が起こった。両親が喧嘩したのだ。

いや、喧嘩の理由も、喧嘩の規模も大した事はない。お母さんは物を投げたりしてたが、お父さんには一つも当たっていなかった。喧嘩するほど仲がいい。この慣用句が頭の中に浮かぶような喧嘩だった。最後はネギが泣き出して二人であやして仲直り。実に平和的な喧嘩だった。

なのに、この喧嘩を大事件と言ったのは、俺の今後を左右する要素が含まれていたからだ。

魔法。

俺は初めて超常の出来事を目の当たりした。

さっき、お母さんは物を投げて、お父さんは一つも当たらなかった、
といったがこれは少し語弊がある。

お母さんはお父さんに当てるつもりで物を投げた。そしてお父さん
は避けなかった。しかしお父さんには当たらなかった。お父さんの
前にある、何も無い空間に弾かれて。

俺はこの時悟った。

二つの違和感の正体。

自分がどういふ存在なのかを。

体から湧き出てる違和感。これは前に話した通り“気”だ。

そしてもう一つ、周りから吸収している違和感。これは“魔力”だ。

お父さんが物を弾く瞬間、その空間には確かに何もなかった。しか
し、俺には感じる事ができた。お父さんの体から俺を悩ませてきた
違和感が出てきて、綺麗に一つに纏まり物を弾いた。

はっきり言つてこの一連の現象を魔法と断ずる証拠はない。だから
これに使用していた違和感も魔力だと決まった訳ではない。でも俺
はこの違和感の正体は魔力だと確信していた。何故かはわからない。

俺の根源がそうしているのか、それとも神の見えざる手がそうしているのか。

そういえば気の事を考察してる時も、同じような確信があった。色々考えて別の可能性を探していたが、心の奥では気以外にはありえないと思ってた。

うーん、自分がとういう存在か悟ったと言ったが、また新しい謎が増えた。俺は一体何者なんだ？何故自分の事を一切合切忘れてる？

今回の両親の喧嘩でわかった事は、俺はこの世界の住人ではなかったということ。

……ショックはある。でももう立ち直った。

どうしてそう思ったかというのと、やっぱり気と魔力を違和感として認識したからだ。

両親の様子から、この二つはあって当たり前のもなのだろう。でも俺はそんなあって当たり前のもに違和感を感じた。

それにこの違和感はすごく大きいのだ。生まれて五ヶ月経つのに一向に慣れない。こんな違和感を抱えて、幼いネギが正気でいられるとは思えない。

多分この世界の気は、俺のいた世界のものよりずっと強力なのだろう。

魔力は俺のいた世界ではオカルトの産物。

だから俺はこの世界に生まれて、気と魔力に違和感を感じた。

わからなかった事がわかってきている。でも俺は前世の自分の事はわからないままでいいと思ってる。

だって俺はもうスズナ・スプリングフィールドなのだ。

騒がしい両親がいて、最高に可愛い兄弟がいる。それが今の俺の全
てだ。

俺は隣にいるネギに笑いかける。ネギは俺と目が合うと声を出して
笑い出す。

明日はいい日になりますように。

五話（後書き）

なんか色々進展した話。

主人公が異世界人だったり、主人公の能力の片鱗がでてきたり、主人公がネギに萌え萌えしてたり。

主人公とネギの関係はホントにどうしよ。

いくつか考えてるんですがどれがいいですかね？

？主人公はネギの事を気にかけてるけど、ネギは主人公の事嫌い。

？二人共嫌い合ってる。

？普通に仲の良い兄弟。

？ネギを男の娘にしてヒロイン化。

？が一番話出来上がってます。

六話

生後七ヶ月。俺達は両親の元を離れた。

事情はわからないが、どうやらお父さんの故郷に預けられる事になったらしい。

別れる際、お母さんがずっと謝っていたのが印象的だった。

環境が変わって、もっとこの世界の事を調べようと思い、最近できるようになったハイハイで本のところに向かう。しかし、

「あゝスズナちゃんどこ行くの〜」

これだ。俺の従姉で、現在の俺の敵。ネカネ・スプリングフィールド。

「向こうは危ないからお姉ちゃんと一緒に遊びましょうね〜」

事あるごとに俺の行動を邪魔する。

確かに、まだ一歳満たない子供を一人にしないようにするのはわかるし、弟ができて可愛がりたいのもわかる。

でも、俺もハイハイができるようになって行動範囲が増えたのだ。

溜まりに溜まった疑問を早く解決したい。

「イナイイナ〜イバァー」

ハア……俺の願いは届きそうにない。

心の中でため息を吐き、目の前にある従姉の満面の笑顔に向かって
愛想笑いを送った。

預けられてから約一週間。俺は疑問を解決する事を後回しにし、ほ
かの事に集中することにした。

気と魔力。

やっぱり男の子ならこの二つは使ってみたいと思う。

俺が前にいた世界では、この二つは漫画やアニメの中にしか存在し
ないものだった。……多分。

自分についての記憶がないせいで、自分がどんな漫画やアニメを見
ていたかわからない。ってかどんな漫画やアニメがあったかわから
ない。

キング牧師はすんなり出てきたのに、漫画とアニメは全く出てこな
いとは……。

前の俺は結構いい歳だったのか？……いや、もう考えるのはよそう。今さら前の自分の事がわかってどうなる。俺はスズナ・スプリングフィールド。プリーティーキュートな赤ちゃんだ。いい加減、前の自分とは決別しないと。

さて、気を取り直して集中だ。

気と魔力。この二つの可能性は無限大だ。今からある程度操作に慣れておけば利用方法がわかった時色々便利になる。

まずは気を全身、どこでも流せるようになる。今は俺の操作が甘いのか、それともまだ俺が全身を把握仕切れてないのか、細かいところに行き渡らすのは難しい。目標は髪の毛の先まで流せるようになること。

そして魔力。これは色々調査してわかったのは気より扱いづらく、肉体強化も気ほど強化されない事。しかし魔法が使える。

せっかく違う世界にきたのだ、魔法は使ってみたい。だから魔力の操作も気と同時進行で進めていく。それに魔力は気と違って外部から吸収している。今は無意識に吸収しているみたいだが、もしこれを意図的に吸収する事ができたら？気は自分の中から湧き出てるもので、多分限界があるだろう。でも魔力を好きな時に好きなだけ供給できたら、いつでも魔法を使うことができる。気がなくなっただけ時も代わりに使うことができる。

一長一短。どちらも良い所があつて悪い所がある。でもお互いが短所を打ち消しあつてる。うまくできてるものだ。

さて、考えが決まった所で早速実行だ。
当分の目標ができて上機嫌の俺は、ゆっくり気を全身に流していった。

六話（後書き）

独自設定、独自解釈が酷すぎる話。

そして魔法にワクワクする主人公。
でもゴメンな。お前魔法使えないんだよ。

主人公は基本的に気と魔力だけで戦っていく予定です。咸卦法が主力になります。

マジックアイテム自作出来るようにしてもいいかなあ〜って思ってますが、なんかややこしくなりそう。

七話

気と魔力の操作を鍛え始めて三ヶ月。生後十ヶ月になった。

髪の毛の先まで流せるようになるという目標はまだ達成できていないが、指先までなら行き渡らす事ができる。

そして魔力を意図的に吸収するというのは、まだできていない。無意識にやっている事を意識的にするのがこんなに大変だとは思わなかった。

要は俺がしようとしている事は、勝手に動いている心臓を自分の意思で動かそうとするのと一緒だ。……この例えだと全く出来そうにないな……。

まあ、まだできていないがコツはもう少しで掴めそうなのだ。このペースで鍛えていたらいつか出来るようになるだろう。

問題はこの魔力を意識的に吸収する訓練の時に気付いた事だ。

意識的に魔力を吸収しようとする際、掃除機みたいにスイッチを押せば吸い取れるという単純な仕組みにはなっていない。ちゃんと周りにある魔力を把握しなければ吸い取れることは出来ない。

今は大雑把にしか感じる事しか出来ないが、もつとちゃんと魔力を把握しなければ吸収するコツを掴んでも意味がない。

だからこれからは気と魔力の操作はお休みして、魔力を吸収するコツを見つける事、周りにある魔力を把握する事に集中して訓練していこうと思う。

魔法を使うのが楽しみだ。

さて、訓練内容も決まった事だし溜まりに溜まった疑問を解決しに行こう。

最近ネカネさんはネギにかまいつばなしだ。まあ色々遊んであげたら反応が返ってくるネギの方が面白いのだろう。ネギもハイハイが出来るようになったから、ますます目が離せなくなつたし。

ネカネさんも若いから二人の子供を同時に相手するのはキツイしな。それに俺はもう歩けるようになったからある程度ほつといても大丈夫だと判断したんだろう。

まあ、なんにしても自由な時間ができたのは嬉しい。少し寂しいが、ネギの世話に集中してくれるのは俺も望んでる事だ。いい子に育ててくれ。

時々転びそうになりながらやつと本棚に着いた。あまり本の量は多くないが、今の俺には充分。

まずはこの世界と前の世界との差異を調べる。そのためには歴史書でもあればいいのだが……。おつ『世界の歴史』つてのがある。なんと都合がいいが、これは幸先がいい。早速読んで見る事にしよう。

……結果を言うなら差異はなかった。この歴史書は俺に新たな発見をもたらさなかった。しかし新たな問題が出てきた。

文字がわかる。

歴史書を半分ぐらい読み終えた所でそれに気付いた。

今思ったら俺は生まれてすぐにお母さんの言葉を理解した。その時は前の俺はお母さんと一緒の言語を使うのだと思ったが、この歴史書を読んでそれが勘違いだとわかった。

俺が今住んでる場所はイギリスだ。だからイギリス英語で書かれた歴史書をなんも苦もなしに読めた事は驚かなかった。しかしこの歴史書は世界の歴史が書かれている。もちろんほとんどイギリス英語で書かれているのだが、要所所で別の言葉が書かれている所がある。俺はその別の言葉もスラスラ読めたのだ。

ハア……疑問を解決しようとしたのにまた疑問が増えるとは……。

歴史書をしまい何気なしに手に取った旧約聖書をパラパラめくる。もうやる気が一気になくなった。こうもボンボン疑問が湧いてきたらどう処理していいのかわからない。

前の俺は翻訳家だったのか？決別しようと思っても、こんな疑問が湧いてきたら気になってしまう。

旧約聖書を三分の一までめくった所で、手が止まる。
そのページにはこう書かれていた。

『バベルの塔』

調べ始めて最初の発見に身を強張らせる。

こんなもの俺は知らない。

慌てて姿勢を直し、本にかじりつく。

難しい言い回しで書かれていたが、なんとなく意味はわかった。

要約すると、人間がすごく高い塔を建てた。神が怒って塔を崩した。
そしたら人間の言語がバラバラになった。

うん。要約しすぎた。

でも俺にとって重要なのは最後の、人間の言語がバラバラになった
という部分だけだ。

もしかしたら、俺が前にいた世界ではバベルの塔は建設されなかつた。
だから人間の言語はバラバラにならなかった。
多分言語がバラバラになったのは神の罰なんだろう。俺はその罰を
受けていない。だからこの世界ではどんな言語でもわかる。

んな馬鹿な……。ありえないだろ。こんな大きな違いがあったら同

じ歴史を辿るのは不可能だろうし、旧約聖書なんてフィクションだ。バベルの塔なんてこの世界でも建設されてない。

やっぱり前の俺は翻訳家だったのだろう。

それしか説明がつかない。

そろそろ戻らないとさすがにネカネさんが心配する。

今日は結構有意義な日だった。新しい疑問が増えたが、これはもう考えなくていい。

今日は本を読んでばっかだったから、明日は訓練に専念しよう。

七話（後書き）

やっぱり魔法にワクワクする主人公でもその幻想は三歳の時に壊れる。

そして主人公のどんな言語でもわかる能力が発覚。はつきり言おう。後付け設定です。

三話か四話書いてる時に気付きました。主人公って日本人？って。だから急いでそれっぽい理由を作って話に入れました。矛盾が出てきそうで怖い。

やっと漫画買いました。まだ読んでないけど。明後日までには読破します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7295y/>

イデアの波に乗って

2011年12月3日05時48分発行